かわらばん

河原版

調布の自然で遊ぶ　「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表　尾辻　義和　０４２４－８７－４３８５

編集　四方田　清　０４２４－８０－４６４０

第１３号　１９９９年４月発行

子供たちの未来に、大人の責任を果たそう

代表　尾辻　義和

上ノ原地区には、昔から国有地と呼ばれてきた空き地を整備した柴崎公園がある。子供のソフトボールが２カ所で同時にできる広さがある子供会の活動がとても盛んな地域で、特筆すべきは、お父さん達が子供会活動のソフトボールを中心とした活動を支えていることだ。この地区での子供会の活動に重要な役割を果たしているのが、なんといっても柴崎公園ではないだろうか。

子供たちの遊び場が住んでいる家の近くからどんどんなくなっていく中で手放しでほめられることである。以前いた滝坂地区では、世田谷区に近いこともあり、子供が野球で遊べる空き地はずいぶん前になくなってしまった。

滝坂小学校の校舎、校庭改修では、１年近く思いっきり走り回れるグランドを取り上げられた。子供たちの様子がおかしくなってきていることに危機感を抱いたお母さん達は、体育館の開放を働きかけ、交代で立ち番をして実現した。子供には、十分な遊び場が必要なことをあらためて痛感した。

子供たちが健全な発育をしていないのではないかという思いを持つ人は多いのではないか。おかしな子供に関するニュースや雑誌の記事も多いような気がする。もちろん、神戸の事件も例外ではない。昔から、子供はその地域で育つものであることはよく言われてきたことだ。これには、遊び場、子供、それを見守る地域の大人が３点セットで必要なのである。まずは、遊び場でこれがないと始まらない。

これからの私たち大人には、子供たちの未来のために、十分な遊び場をわざわざ作らなければならない責任がある。

野川を華麗に走る？！

東野川ジョギングクラブ会員　中野耕二

それは今から４年ほど前のある日の土曜日の夕方のことであった。お互いの子供の友達の親という関係の、三人のおじさんたちが、野川の遊歩道を走りだした。
スタートは神明橋のたもと。最初は公証役場付近までの往復役３ｋｍをドタドタ、ゼイゼイ、ヒイヒイ、ハアハア。「これは命懸けだな」などと言いつつ当初の不純な動機、終わった後、狛江ハイタウンの酒屋でおいしいビールを飲むという目的のみで、相変わらず、ドタドタ。そのうち、何となく距離も伸び、甲州街道（往復４ｋｍ）までは何とか走れるようになってきた。

しかしながら、おじさんという年齢を考えると無茶は出来ない。そこで簡単な取り決めが出来上がった。「決して頑張らないこと」。幸い野川にはたくさんの橋が架かっている。そこで、その日の体調に合わせ、だめだと思ったら、各自勝手に手前の橋を渡り引き返すこととした。そんなこんなで、ワガママ好き勝手のジョギングクラブができてしまった。

その後、三人のおじさんたちのグループも何となく走っている人たちにナンパされたり、ナンパしたりで、最大男女八人のグループにまで発展し、名前も「東野川ジョギングクラブ」と命名。当初、夕方のスタートも日曜日朝７時３０分、場所もふれあい広場前（通称リス公園前）からとなり、中央高速まで（武蔵野市場前往復８ｋｍ）が平均的な距離になり、たまには大沢橋（往復１２ｋｍ）を越え、野川公園（往復１３．５ｋｍ）まで走ることが出来るようになった。

また、メンバー全員でハーフマラソン（神奈川マラソン）では全員完走を果たし、フルマラソンを完走するメンバーも現れ、さらにご夫婦でハワイホノルルマラソン参加完走も果たしてもいる。

それでも、当初の取り決めは変わらず、無理せず、ジョギングの基本であるメンバーとの会話を楽しみながら走り、「前の日飲み過ぎた」と言っては途中で勇気を持って（堂々と？）引き返すことは変わらない。

四季折々の野川の変化を肌で感じ、（今年は市場より少し下流に鵜が来ていた）、川の水量が増えたの増えないのと一喜一憂し、富士山が見えたの見えないのなどと騒ぎながら、早足で歩くよりもちょっと早い程度のスピードで相変わらず、ドタドタ。当初の不純な動機も、新年会、忘年会、よくわからない反省会などとふえた。たまには、家族参加の宴会も行ったりしている。

最近、海外転勤やホノルルマラソン参加のご夫婦の引っ越しなどで三人のメンバーが抜け、少々寂しくなってしまったが、野川の自然を最大最高に利用できる方法の一つとして新たなメンバーも引き入れ、人と自然の出会いを今後とも楽しんでいきたいと思っている。

（編集注　中野さんは当会の会員でもあります）

‘９８たんぼレポート

田んぼ班　大木　健次

１４０Ｋｇを越える収穫。柏野小５年生有志の参加。柏野小学校校長先生の励まし。春先の豊富な水量...。いろいろあった‘９８年の田んぼを「たんぼ新聞」からレポートします。

春

「柏野小５年生３人、雨の中頑張る」

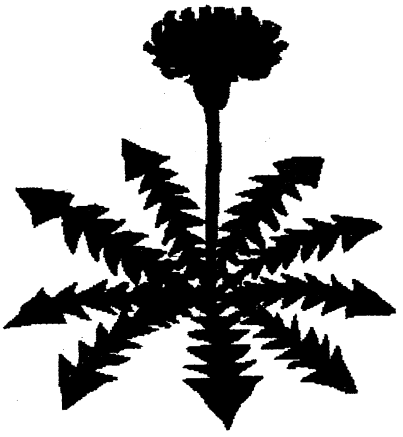
６月１３日、１４日の両日、柏野小ＰＴＡ大場さん（当会会員）の尽力で、柏野小の５年生３人がたんぼにやってきました。私たちの指導をよく聞き、最後まできちんとやる子たちでした。雨の中ずぶぬれになり、最後は寒さに震えながらも頑張りました。風邪を引かないかと心配しましたが、翌日もケロッとしてやってきて、再びずぶぬれになって帰っていきました。「収穫祭のとき、餅を腹一杯食べさせてくれるなら、一年間たんぼやってもいい」とは頼もしい限りです。期待したいと思います。

「柏野小学校校長先生が、子供たちを励ます」

柏野小学校の野本校長先生が、両日ともたんぼにみえ、頑張る子供たちに声をかけ、近くの畑で働く児童のご両親にもご挨拶をされていました。

「竹内さん、植え方を叱る」

２日目、小さい子供たちがドッと繰り出し、見た目にも雑に植えだしている丁度その時、竹内さんがたんぼの様子を見に来られました。何事もないときは、「大勢でいいですね」とにこやかな竹内さんが、これを見て、「これじゃだめだ。浮いちまう」とクレーム。それなりに、一生懸命にやってくれている人にやめてもらうわけにもいかず、困りました。その時、大場さんから「農家の人の気持ちが分かりました」と言ってくれたのが印象的でした。



（１１ページに続く）

お米を作る

調布市立柏野小学校　校長　野本　鞠

新潟県上越市の雪国から帰ってきました。大手町という小学校で２００２年から始まる“総合的な学習”について研修をしてまいりました。

その中に食糧自給率の低いわが国にとって必要な食糧問題を総合的に扱っている五年生の学習もありました。私は柏の里の田んぼで働く子供たちを思い浮かべました。その学校の五年生のせいかつ単元群は「食糧」がテーマです。「私たちの食糧は私たちの手で」という発想を基本として、米作りや野菜作りをしながら、食糧に関する問題を調べていきます。

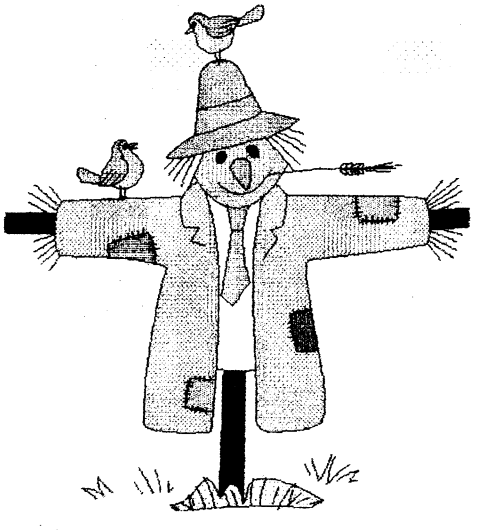
十月のさつまいも掘りはたいへんだったそうです。小さなおいもも傷んだおいもも畑の中から一かけらも残さず子ども達は掘り取っていったそうです。

それは３週間後に迫った空腹体験「食糧…その日」があるからです。自分たちで収穫した作物でひと冬過ごすとしたらと想定し一人分の食糧を計算しました。なんと、一食分が 60 キロカロリーで標準の約１０分の１だったそうです。具なしみそ汁、水っぽい雑炊などの献立に育ち盛りの子ども達の空腹気分はいやでも盛り上がったそうです。

60 キロカロリーの食事２回で１日を過ごすなんて飽食の時代の子ども達にはこのように敢えて場を設定しないと体験できないことだと思います。この体験後、給食を残す子ども達がいなくなったとも聞いています。

都心から 20 キロ圏内ではめずらしいほど自然を残すこの地柏の里で、命を支えてくれる水の大切さ、そしてお米作り体験を通して食糧自給の大切さを子ども達に教えてくださっている「野川で遊ぶまちづくりの会」をありがたく思いました。

初夏の田植え、どっぷりと両足は泥田につかっていても、田植えの要領を覚えて得意そうに働く子ども達の姿は自信に満ち



ています。

夕暮れが早くなりはじめたころの稲刈り、私も学校に遊びにきていた卒業生を誘って田んぼの稲刈りに馳せ参じました。小学生、中学生の手足の動きも稲刈りの要領が呑み込めてくるに従ってリズミカルな動きへと変わっていきました。みんないい子たちで働くことやみんなと力を合わせてひとつのことをなし遂げる快さを知っているのです。

子ども達全体を見回すと、それぞれ多様な生活を送っているのでこのような体験も全員でということは無理があるように思いますが、一部の子ども達でもよい体験をさせていただきました。

こうした生産勤労活動は子ども達を育ててくれています。収穫祭には私は都合により参加できませんでしたが、子ども達はおいしいお米で心も体も豊かにすることができたことでしょう。子ども達をご指導ご支援いただいた方々ありがとうございました。

来年もやりたいお米づくり

柏野小５年　林田華緒

私はおもち会に参加しました。

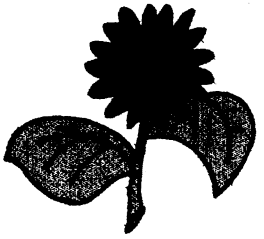
きなこもち、あんころもち、おろしもち、その他にもいろいろありました。

そのおもちは、私もちょっとだけ作りました。今年の春、田植えの時、みんなといっしょに苗を植えました。その時は雨がふったりやんだりでたいへんでした。ぬかるみでくつがぬけずにころびそうになりました。

ほが実り出したころ、かかし作りに参加しました。いらない洋服を集めて女の人を作りました。洋服を選ぶのにきせかえ人形みたいで楽しかったです。

いねかりも参加しました。

１たばを切るのは、最初はたいへんで２本ずつ切りました。なれてくると５本、６本、７本と増えて、１たばを切りました。力がいっぱい必要だったからつかれました。そのおもちは、田植えをしてかかしを作り、いねをかってできたおもちを自分で食べられることは、とっても楽しい気がします。



来年も一年を通してまたやりたいと思います。

初めての稲刈り

中学１年　半田智美・持田亜美沙

10月30日（土曜日）、私達は久しぶりに柏野小学校に、行きました。

校長先生から、

「今、五年生が稲刈りをしているから、いっしょに行ってみない？」と誘われたので、おもしろそうだから、行ってみることにしました。

田んぼに着くと、５年生達が、がんばって稲を刈っていました。

すると、

「せっかく来たんだから少し、稲刈りしてみたら？」と鎌を渡されて、私達もやってみることにしました。

生まれて初めて鎌を持ったので、持ち方から教えてもらって、さっそく挑戦してみました。いざやってみると、思ったより力が入り、鎌がひっかかって、一束切るのにすごく時間がかかりました。慣れている人は、私達が一束切るうちに四、五束刈っていました。

滑らすように鎌を引くといいと言われたので、その通りにやってみると前より切れやすくなりました。夢中で刈っていて手が痛くなってきたころ、田んぼの稲は、やっとすべて刈り終わりました。辺りはもう夕方になっていました。

それから私達は稲を束ねて、竹で作った竿のような物の上に、二束分の稲を束ねたものを干す作業を始めました。これは、「刈りとった稲をしっかり乾燥させるためにやるのかなぁ」と思いました。

帰り道私達は、

「今日は遊べなかったけれど、いい体験ができたし、おみやげに菜っ葉も、もらえたしよかったね。」と、話しながら帰りました。

また、このような機会があれば、ぜひ参加したいと思いました。

野川流域調査報告／大西友幸OONiSHiTOMOYUKi（学生）

（1）1／5000地圖「大町」の解説

夏休みに調査した時が、丁度野川の水がないときでした。その時の様子を描いたので、野川が地圖の中心であることが他の地圖よりはっきりしています。崖線が野川から乖離しているので、平面的でおもしろみがなくなっていますが、「柴崎」など周邊の地圖を重ねあわせてみると、大規模な構造がみえてきます。菊野臺緑道などの水路跡を手掛かりにして地形の構造を見てください。

「大町」中最大の森は金子團地です。まちなかなので大規模の自然があまりないんですね。そんななか、柴崎驛北側の菊野臺第一仲よし廣場が宅地されました（94年秋頃）。まちの風景は日々變わっていき、この地圖もどんどん陳腐化してしまいます。

（2）水路跡＆緑道番付（獨斷のベスト20）：カッコ〔〕内はその場所を含む地圖名

①調布飛行場北縁→大澤宿兒童遊園→大澤グラウンド通り東沿い→下畠一之橋など→八幡橋大澤橋中間右岸で野川へ　〔大澤－深大寺〕

：淺間山を水源とする野水の跡．一番大きく長い水路跡だと思います．

②ふじのき公園→前原遊歩道→小金井新橋付近で野川へ　〔小金井－前原〕

：長い水路跡．途中で、野川からの水路跡と合流します．

③深大寺用水東堀隧道の跡→柴崎緑道→神代ふれあいの森裏→西つつじケ丘第二緑道→西つつじケ丘緑道－入間川へ　〔野ケ谷－柴崎〕

：これも長い．古地圖によると深大寺用水の跡らしいです．野川と入間川の間の細い低地（古い地名では、蛇窪、沢谿）をぬっていきます．緑道、細い道、やぶ、など多様な状況が樂しいです．

④上ノ原公園東南端→柴崎稻荷南端→上の原通り→菊野臺緑道→菊野臺第二緑道→調布大町小南縁－箕和田橋小金橋中間左岸で野川へ　〔柴崎－大町〕

：箕和田橋小金橋の中間の左岸からの排水口からの水はどこから出てるんでしょう．

⑤虎狛神社南縁→逆川へ　〔佐須〕

：「佐須」中で最大の水路跡ですが、逆川や佐須の用水の陰に隠れていますね．

⑥野川緑地公園　〔大町－入間〕

⑦前原いちょう廣場→神明社→野川緑地公園　〔小金井〕

⑧いなりさま東縁→みつおさ通り→谷戸橋廣場　〔入間〕

：みつおさ通りまでは何でもない道ですが、その先には．．．

⑨嚴島神社→神代出張所南方道路（擴張工事中）→神代團地方面へ　〔柴崎－大町〕

：この水路跡をたどると、このあたりのゆるやかなはけがよくわかります．

⑩天文臺もみじ兒童遊園→三鷹羽澤小學校東縁　〔大澤－深大寺〕

⑪入間第五仲よし廣場→入間公園　〔入間〕

⑫野崎八幡→深大寺用水東堀西堀わかれの跡→入間川水源流地跡　〔野ケ谷〕

：水路跡は調布市と三鷹市との市境になっています．

⑬下辨天→舊野川　〔小金井〕

：數年前までは野川の水が流れていましたが、いまは埋められています。

⑭榎橋上流で野川から分流→最近整備された道の並木　〔佐須〕

：ほったらかしの細いやぶ、大きくない道に不似合いの並木が水路跡です．

⑮陵山公園→城山南縁　〔入間〕

：三面張りの構造がちゃんと殘っているりっぱな川の跡です．

⑯下布田緑地→調布七中南縁→金子團地　〔佐須－大町〕

⑰ホタル水路→朋愛幼稚園→小金井自動車學校北縁－天神橋東方　〔前原〕

⑱調布飛行場南縁→調布飛行場東縁→大澤總合グラウンド東縁　〔大澤－深大寺〕

⑲西野川緑道　〔大町－入間〕

⑳榎橋兒童遊園→舊えのき橋→記念の森兒童遊園→野川へ　〔佐須〕

1994・8・26

湯水期

1:5000

0 100 200M

大田

光照寺

あかね橋

中島橋

野川中央

第七中學校

馬橋

調布警察署

菊野臺1丁目

菊野臺1丁目第二

菊野臺第一

金子地蔵

車橋

菊野臺2丁目第二

菊野臺2丁目第一

車橋小児地

菊野臺2丁目

大町橋

國領小學校

くすのき第二

國領ふれあい

公園

佐須街道

柴崎

八雲臺

菊野臺

(調布)

國領

西

記號

土地利用

- 畑
- 植木果樹
- 草地
- 陸稻
- 車橋 兒童遊園
- 光照寺 仲よし廣場
- 馬橋 緑地

水路など

- 水路暗渠部
- 水路跡
- 池
- 水路
- 1994・8・19ほれ調査時點で
- 野川(水アリ)
- 野川(水ナシ)

常緑廣葉樹

- しらかし かし
- くすのき
- その他

落葉樹

- けやき
- さくら
- いちょう
- こなら
- くぬぎ
- えのき
- そろいぬしで
- やなぎ
- すすかけのき
- くわ
- あおぎり
- さるすべり
- ぼたん
- その他

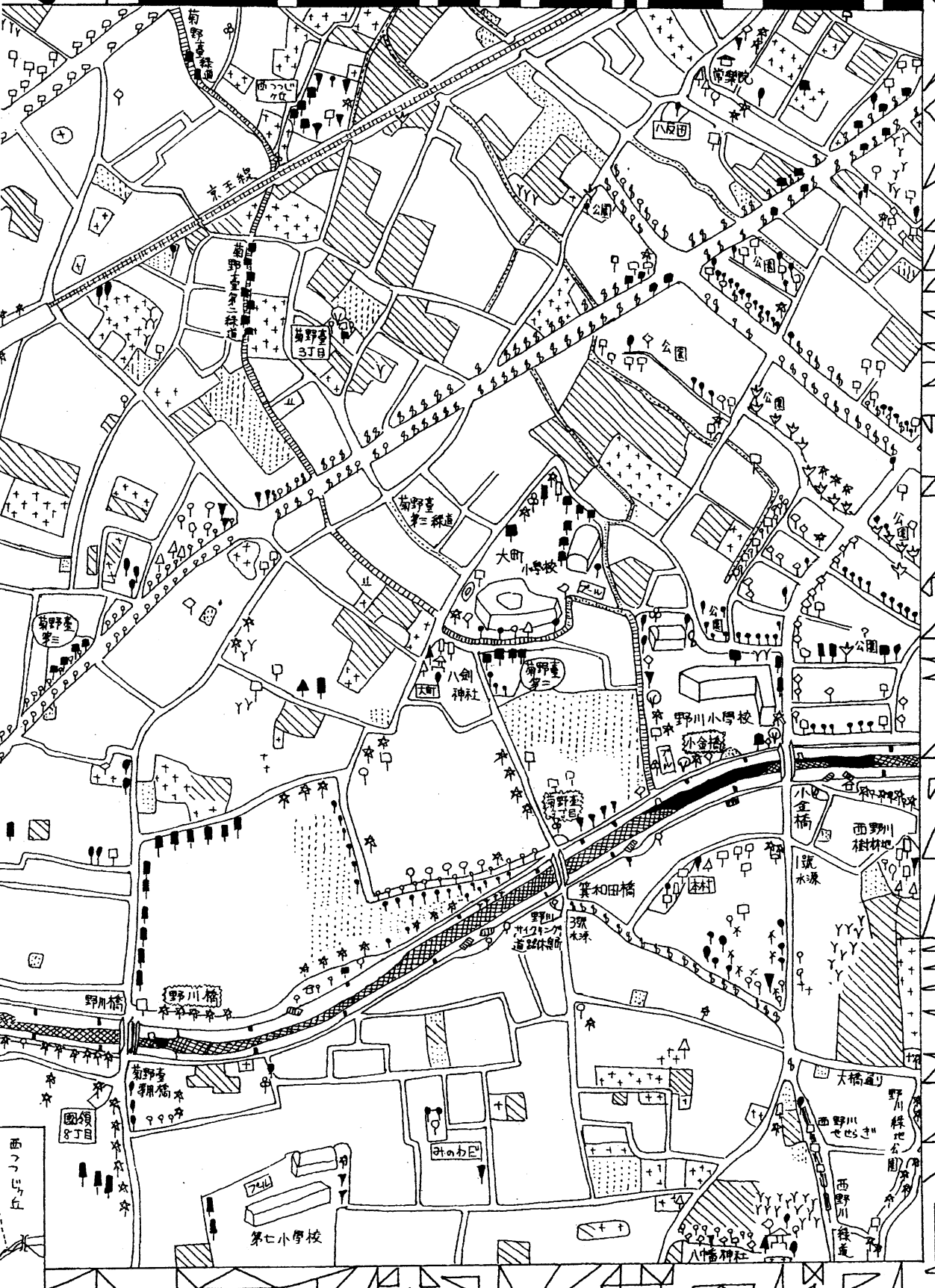
針葉樹

- スギ ヒノキ
- ヒマラヤスギ
- アカマツ
- クロマツ
- ソノ他

竹など

- 竹
- おぎなど
- 樹種不明

町のいたるところに


菊野臺緑道
西つつじヶ丘
京王線
菊野臺3丁目
菊野臺第二緑道
菊野臺第三
八反田
公園
大町小學校
大町
八剣神社
菊野臺第二
野川小學校
小金橋
菊野臺7丁目
小金橋
西野川樹林地
1號水源
箕和田橋
本村
野川サイクリング道路休憩所
3號水源
野川橋
野川橋
菊野臺野川橋
國領8丁目
西つつじヶ丘
みのわビル
第七小學校
大橋通り
野川緑地公園
西野川せせらぎ
西野川緑道
八幡神社

田舎の雪囲い

堀　利文

十日町は日本でも屈指の豪雪地帯である。一晩に３尺（約９０ｃｍ）は当たり前と言われ二階建ての屋根までも届く程積もることもあったが、今は温暖化の影響か元旦でも雪が無いことがある。でも、１月中旬からはいつも通りの豪雪になり３月まで、遅いときは５月の連休まで家の北側には雪がある。この地方の雪は湿気が多く、少し積もっただけでも木の枝は折れてしまう。今年（９８年）の春には東京でもかなりな積雪があり枝が折れたり交通渋滞が起きたことは記憶に新しい。この状態が１～３月まで続くわけで、植物は自然淘汰され運良く大きくなれたものだけが残ることとなる。屋根から落とす雪は自然に積もる雪よりさらに重く、家の回りすべてに山のように投げ下ろされる。家のそばにある小さな植物にとってはたいへんなことである。

家の造りも自然と豪雪対応型となり３階建てで、２階に玄関を造る家が多くなってきた。最近では保温効果を上げるために窓の小さな家が増えてきている。屋根の雪下ろし作業も屋根は融雪式や自然落下式の構造となり手間がかからなくなってきた。だが、植物だけは人手をかけ丁寧に囲う必要がある。さもないと翌春以降の芽吹きは期待できない。

「まったく無駄なものである。春になればまた解けてしまうのに．．．」。毎年そう思いながらも雪囲いは必要な年中行事としてしっかり根づいている。紅葉が終わり葉が落ちた順に囲い始める。３ｍ位の木は長い丸太などを扇状に立てかけ立てかけ結び付ける。枝がしなやかな木は縄で絞りながら細くまとめ上げる。小さな木も基本的には同じでように板で囲うか、まとめあげる。家の窓も囲わなければならない。そうでもしないと雪は窓ガラスを破り、家の中までも入ってくる。窓の両脇にはそのための板をさし込む金具が付いていて、手間をかけず毎年同じ板を同じ所に差し込むだけの構造となっている。１１月初旬から少しづつ作業を始め、初雪が降る前には終わらせておかなければならない。縛られた植物達は３カ月ほど雪のなかで少しずつ蕾を膨らましながら待ち続けているのである。

根雪が解け、野原にかたくりの花が咲き乱れ、れんぎょう、こぶし、さくら、梅などの木々は一斉に芽吹き、同時に花をつけ、山菜取りの５月を迎える。雪囲いもこのころには取り外され、縛られていた植物は大きく背伸びをする。我が田舎はこのころから耕運機の音が響き、にわかに活気付いてくる。山にはまだ雪が残り、遠く鶯の鳴声が聞こえるはじめるのもこのころである。ようやく待ちに待った春がやってくる。

‘９８たんぼレポート（続き）

「今年のたんぼは完全無農薬」

放っておいても稲は育つ、はずもなく、陰には尾辻さん、依田さんらの毎日の水管理、害虫のハンド除去作業など、不断の手当が今年もありました。

夏

「柏野夏祭り」焼き鳥屋台フィーバーす」

雨が降ったら、体育館を開放してでも出店を並べてしまうところが、柏野夏祭りの夏祭りたるところ。ポツンと雨の中、ひとり取り残されたグランド中央の櫓を時々見ながら、焼き鳥に精を出しました。毎年焼き鳥屋台にもお手伝いいただく中野さん。堀さんの三男坊はお父さん譲りの几帳面な団扇さばき。依田さんの炭の追加タイミングもグッドでした。おかげさまで、完売。皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。やっぱり、来年もやりましょう。

秋

「稲刈り、気分はニューウエーブ」

さて、今年の稲刈り。丸太の「はざ」…よりも、何と言っても顔ぶれがフレッシュだった。三島君のお母さん、柏野小学校の野本校長先生、校長先生が連れてきてくださった中学生の女の子二人。この子達がまたたんぼにフィットした。田植え以来の５年生の男の子が二人。さらに、四方田さんの知り合いの池田さん一家。大場さんのお爺ちゃんは、二日連続の参加。単に顔ぶれがフレッシュになっただけでなく、「新しい風」が古いたんぼに吹いてきたような感じがします。（ニューウエーブだから、「新しい波」か…）

皆さん、たんぼが息を吹き返しました。

１９９９年も無理のないやり方で稲作りにかかわろうと思います。参加したい方をお待ちしています。（会員一同）

キャンパス生き物見聞録

上村　佳孝（東京都立大・理学部）

八王子市南大沢の都立大学に通ってもう4年になります。「アッという間の大学生活」なんてよく聞きますが、私の場合はこの4年間は10年間くらいに感じます。歩けば歩くほどうれしい生き物との出会いがあるキャンパスのおかげです。それではキャンパスの自然をおいしいところだけダイジェストでご案内しましょう。

ヤブザクラ咲く頃

生物学科に入学した1年生が、初めての実習として野外観察をおこなう場所は、キャンパスの南斜面の松木日向緑地（通称「ひなた緑地」）です。ちょうどその頃、多摩の限られた地域でしか見られないヤブザクラが見頃になります。この桜はマメザクラとエドヒガンという2種類の桜の雑種で、ヤマザクラのように白い花と若葉を同時につけ、新緑の斜面に映えます。多摩地域独特の植物といえば、タマノカンアオイも緑地の歩道沿いによくみられます。

カンアオイを餌にするギフチョウは残念ながら見られませんが、ツボスミレ、チゴユリ、ササバノギンラン、ジュウニヒトエ等の花に彩られた林床から舞い立つ、コツバメやトラフシジミといったかわいい蝶を眺めるのも春から初夏の楽しみです。

夏の林縁に立つノアザミ

池も林も大合唱

キャンパスには3つの池があります。通称「イモリ池（200-300匹のイモリが生息）」は緑地の林の中にあるもっとも自然度の高い池です。6月頃にイモリ池を訪ねてみましょう。池にかぶさるイヌシデの枝先に白いものがぶら下がっています。モリアオガエルの卵です。夜に行けばメスガエルを呼ぶオスガエル達の大合唱が聴けるはずです。ひょ

っとしたらゲンジボタルの光も見られるかも。ヒメハルゼミの「ジーワンジーワン」という大合唱の林の中、夏の水辺は繁殖期を迎えたカエルやトンボで大騒ぎです。

池で見つけたコバネイナゴ

カンタン響く葛野原

ヒガンバナが咲く頃になっても、緑地はいっこうに静かになりません。コオロギやキリギリスの仲間の大合唱が続きます。9月の初旬に鳴く虫の観察会をおこなったところ、15種類もの鳴く虫の声を聞いたり、姿を見ることができました。目玉は鳴く虫の女王と呼ばれるカンタン（鳴くのはオスですが…）。クズの茂みから絶え間なく響く「ルルルル…」という声はまさに日本の里の秋の風物詩です。

小春日和に日光浴するムラサキシジミ

ノウサギ跳ねた

ジョウビタキやツグミといった冬鳥の便りが届き始めると、やっと緑地は静けさを取り戻します。雪の積もった朝の楽しみは動物達の足跡探し。運が良ければノウサギが跳ね回った跡が見られます。姿はまだ見たことがないのですが、ウサギ年が終わるまでには見たいと思っています。

都立大のキャンパスは緑地とつながった開かれたキャンパスです。近所の方が子供連れで散策する姿もよく見かけます。是非、キャンパスの自然を遊びに来てください。

（追記）　インターネットを使用される方は下記のホームページをどうぞ。キャンパスの生き物達の紹介があります。

http://campus.biol.metro-u.ac.jp/ikenokai/index.html

“頑張れ、都市農業”

(11)

落ち穂拾い・「農のこころ」

依田輝男

10月18日早朝、昨夜来の猛烈な台風もようやく衰えを見せ始めた中で、気になっていた周囲の田んぼを見渡すと、篠宮さんや、加納さんがしっかり積み上げていた「はざ」があらかた倒れてしまっていました。ここへ引っ越してきてから6年目にして初めて見た光景でした。この日、日曜出勤だったので心急ぎ私たちの田んぼを通ると案の定、竹を組み合わせた「はざ」は無残な姿になっていました。会社についてすぐ、尾辻さんに電話して、会員を非常召集して「はざ」を修復するよう頼みました。帰りに田んぼを通ると、木柱で補強されて稲たちは逞しく、夕闇の中で立ち尽くしていました。

翌日、田んぼをのぞくと、大急ぎで行われた修復作業が暗くなるまで続いた様子で、大量に落ち穂が散らばったままでした。「すずめおどし」が取り外されたままだったので、すずめの大群が群がっていました。大切に育てたお米を食われてなるものかと、急ぎ鳥除けの金銀のキラキラテープを買ってきて、田んぼや「はざ」の周りに張り巡らしました。終わると、秋の日差しを受けて、田んぼ中がキラキラと輝き渡りました。

次に、落ち穂拾いです。これだけ落ちていれば拾い甲斐もあるというほどでした。そして50年も昔の子供の頃を思い出していました。稲刈りの後の落ち穂拾いはもっぱら子供の仕事でした。私たちは、そういう作業を通して作物を大切にする心を学んだのでした。

今、都会の田んぼで「種蒔き」、「くろつけ」、「田植え」、「田の草取り」、「稲刈り」等私たちは昔ながらの手作りの農作業の中から、土、太陽、水の恵に感謝し、四季の変化や、自然の厳しさを肌身に感じることができました。

私たちは、田んぼを通して、自然のリズムに合わせて、ゆっくり生きることの大切さを子供たちと共に学んでいきたいと考えています。そういう意味で、今年柏野小学校の5年生が7人も、校長先生のお力添えもあって参加してくれたことは嬉しい限りでした。

私たちは、祖先がそうであったよう

に、さまざまな神々に祈る心、「農の心」、「自然を愛する心」を受け継いでいきたいのです。私たちを生かし、包み、癒やしてくれる木漏れ日の暖かさや、木々のざわめきや、逝く夏を惜しむかのようにたなびくうろこ雲やあきあかねの群れ、私たちがこの 3,40 年の間に最も失ってしまったものは、これらのものを愛でる心、自然を畏敬する感受性ではないでしょうか。

日々の通勤電車の中などで特に感じることは、人々がいらつき、とげとげしくなっていることです。子供たちの心の有り様もすっかり変わってきています。これらのことは、人々の暮らしが自然と断ち切られてしまっていることと無関係であるとは考えられないのです。

農業の大規模化、機械化の果てに見失ったもの、祖父や祖母の世代がそうしてきたように大いなるものへの「祈り」、「神々を祀る心」、生き物を愛し、自然に感謝する心を持つことによって、本来の「農のこころ」を取り戻し、地域を愛し、誇りを持って生きることができます。このことこそ、今の私たちに必要なことだと思います。

私たちは、観念的に論じるだけでなく、実践を通して自然を愛することを、環境問題を考える出発点にしたいと思います。

会員募集のご案内

「野川で遊ぶまちづくりの会」では会員を募集しています。野川や、田んぼ、雑木林で子供と一緒に遊びたいと思っている方のご応募をお待ちしております。
会費はありません。子供が自然の中で、想像力と好奇心の固まりになって遊ぶ姿は、貴重な体験となって、地球を救う、大人に成長してくれるのではないかと思っています。尾辻(0424-87-4385)まで、ご連絡をお待ちしております。

「遊ぶ会」活動メモ［1998年4月～12月］

4.25　**苗代作り**、草取り、耕うん。毎年のことながら今年も田んぼが始まるぞというわくわくした気分になる。

4.29　**種まき**。２列作った苗床に今年は強い苗を育てるために薄まきにした。

5.10　**発芽確認**。

5.16　**荒起こし**、草取り、ネット取り外し。苗がまばらすぎないか少々心配。

5.31　**苗代追肥**。苗の育ちはすこぶるよい。

6. 6　**くろつけ準備**。柏野小の野本校長と懇談。

6. 7　**くろつけ**。この技術の進歩、特に田村さんの芸術的技法は目を見張るばかり。きれいに頑丈に仕上がる。

6.11　**水入れ開始**。

6.13
14　**田植え**。柏野小の野本校長と７人の生徒をはじめ総勢３０数名、雨にもめげず、最後まで奮闘。

6.21　苗もしっかりしてきて、銀やんまがパトロールし、しおからとんぼのつがいが産卵を繰り返し、アジアいととんぼ、うすばきとんぼも顔を見せる。

7. 7　１本植えの株もかなり分けつし、色、土、幅ともに良。水量も豊富。

7.18　**一番草**。いっぱい分けつし、たくましく育つよう願いを込める。

8.16　**穂が出始める**。分けつも充分で稲の育ちもよく楽しみ。

8.28,29　**柏野夏祭り参加**。前夜からの強い雨で直前まで開催が危ぶまれ、規模を縮小して屋内で行うことが決定され、焼き鳥の仕入れ数の調整に大わらら。時々の雨間に長い行列ができ、完売することができた。

9. 5　**あぜの草刈り**。尾辻さん一人で頑張る。

9.12　**かかし作り**。柏野小の女の子たちで１体、その他の家族で３体、計４体のかかしが田んぼのお守りをすることになった。

10. 3,4　**稲刈り**。延べ４０人程でまたたく間に刈り進む。柏野小の７人の戦士たちと２人の女子中学生は大きな戦力となった。今年はなぜかいなごをはじめ虫の少ない年だった。

10.18　台風によってなぎ倒された**「はざ」の立て直し**。

11. 1,3　**脱穀**。思った以上の収量にいささか驚く。（１４８Kg）

11.15　**もみすり、精米**。

11.23　**収穫祭**。６０人以上の参加、秋晴れの１日を満喫。

12.12,13　かに山で落葉集め。**堆肥作り**開始。　（文責　依田）

編集後記

柏野小学校の5 年生数人がタンボに参加して、エネルギーをもらったせいか、お米がたくさんとれました。会としては、かれら子供たちの新戦力の参加が大きな収穫でした。(四方田)